第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の出題作成の方針（再掲）

○　「公共」は，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現実社会の諸課題の解決に向け，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用し，文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題，多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答の結果

第１問では，学習指導要領の「Ａ　公共の扉」「公共的な空間における人間としての在り方生き方」の中の「行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方」，「Ｂ　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の中の「法や規範の意義及び役割」，「多様な契約及び消費者の権利と責任」の領域を中心に，権利や自由が保障・実現され，社会の秩序が形成・維持されていくことについての知識・理解を問うことを意図して出題した。問１では，コロナパンデミックを例に，結果を重視する考え方と動機を重視する考え方をもとに当時の状況を振り返って考察させることを意図した。問２では，近代立憲主義や人権保障の歴史的展開についての知識を問うことを意図した。問３では，憲法上の権利や政策形成過程に関する基本的知識を問うことを意図した。問４では，契約の成立とその効果についての原則と例外についての理解を問うことを意図した。

第２問では，「地方議員のなり手不足問題」をとおして，地方における意思決定の在り方や民主主義それ自体の将来像についての思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して出題した。「地方議員のなり手不足問題」は，議会の存在意義，間接民主制の必要性，直接民主制の可能性等，民主主義そのものを問い直すことにつながる基幹的問題であり，これについて自分事として捉え，考えることを趣旨とした。また，この問題は，政治的な要素に加えて，人口減少・過疎化等の社会的要素も絡む複合的な課題であり，これを扱うことで，身近な社会課題を多角的な視野から捉え，それへの多様なアプローチを検討する姿勢を涵養することを意図した。問１では，地方自治と地方の政治制度に関する基本的な知識が身に付いているかを問うた。問２では，無投票となった地方議会選挙に関する資料の読取り，及び，地方自治体の基幹的な制度と機能の理解をとおして，地方議員のなり手不足問題の背景と影響に関する思考力・判断力・表現力等を問うた。問３では，地方議員のなり手不足問題を踏まえ，地方自治法上に規定された「町村総会」をとおして，間接民主制の持続可能性，直接民主制の実現可能性，直接民主制と間接民主制の相違と特徴等に関する思考力・判断力・表現力等を問うた。問４では，ホッブズ，ロック，ルソーの社会契約説をとおして，地方議員をはじめ，政治に主体的積極的に関与する動機，それに関わる利益と負担等に関する思考力・判断力・表現力等を問うた。

第３問では，学習指導要領における「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の中の「主として経済に関わる事項」を中心に，「Ａ　公共の扉」「公共的な空間における人間としての在り方生き方」の中の「社会に参画する自立した主体とは何かを問い，現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する」ことも含めて，個人の尊厳・協働の利益と社会の安定性の確保・

職業選択・市場経済の機能と限界・財政及び租税の役割に関わる知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して出題した。問１は，AI・データ解析の専門家の不足状況や不足理由に関する図表を正しく読み解く技能を問うことを意図した。問２は，囚人のジレンマの状況とフリーライドへの対応に関して，概念や理論等を活用し，制度や政策，企業行為等，社会的事象の本質を捉えることができる力を問うことを意図した。問３は，所得税と消費税における公平性に関する知識を問うことを意図した。問４は，AI の倫理的側面を公共の扉的観点から問うことを意図した。難易度について，全体として標準的との評価をいただいた。

第４問は，学習指導要領の「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の中の「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」の領域を中心に，若者会議に参加するための準備という場面をとおして，これからの社会における課題について社会保障に関わる考え方・知識を用いて課題の解決に向けて考察し，構想させている。青年期の課題，世界の社会保障制度に関わる知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。問１は，通過儀礼や青年期の課題に関して，概念や理論等を活用し，社会的事象の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問２は，会話文と二つの資料を比較して，日本・アメリカ・スウェーデンの社会保障制度の特徴を読み取らせ，世界の社会保障制度，各国の高齢者の意識に関して，概念や理論，事実等を正しく理解する技能を問うことを意図した。問３は，年金制度に関して，概念や理論等を活用して対象を考察し，現代社会の諸課題を捉えることができる力を問うことを意図した。問４は，社会保障に関して，概念や理論等を活用し，社会的事象等の原因と結果等，関連について考察することができる力を問うことを意図した。全体として各設問の正答率・識別力はおおむね適正な範囲に収まっているが，問１の正答率が高く，年中行事の知識を問う際の課題が残った。

３　自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

「功利主義」，「人権保障」，「消費者問題」をテーマにした第１問については，「公共における幅広い分野からの出題で，バランスが取れている問題である」と評価された。他方で，「複雑な技能や思考を問う問題がないため，難易度は低い」との指摘もあった。今後の問題作成に当たっては，知識・理解の問題と思考・技能の問題をバランスよく出題する必要がある。

第２問は，「地方自治を題材にした問題であるが，制度についてただ問うのではなく，「地方議員のなり手不足」という現実的課題を取り上げ，多様な視点から考えさせる，「公共」らしい出題となっている」と評価をいただいた。問１は，「基本的知識を問う，比較的容易な問題である」という評価や「一問一答にならないよう文脈をたどり考えて解くように工夫されている」という評価をいただいた。問２は，「ⓐは資料の読取りで，丁寧に読めば正解できるが，ⓑに関しては，地方自治について詳細な知識がないと答えられない。」しかし，**オ**の誤答が明らかなので，難解ではないと思われる。」と評価をいただいた。問３は，「地方自治法の町村総会の規定を取り上げており，ここまでの知識をもつ受験者は少ないと思われるが，出題としては，『直接民主制』と『間接民主制』の意味を理解していれば，丁寧に読めば判断できる問題となっている」との評価をいただいた。問４は，「［ア］と［イ］に関しては，身近な政治である地方自治の視点から，社会契約説に立ち返って，政治の原点を考察させる良問であると思われる」，「新自由主義的な価値が跋扈する今日だからこそ，高校生に人間としての生き方在り方を考えさせる大切な問い」との評価をいただいた。一方で，「［ウ］も知識を問うてはいるが，二つの選択肢の用語が授業では教えられていないことが考えられる。『アウトソーシング』は外注という意味の一般名詞として理解しているかもしれないが，経済実務の用語としては用いられている『インセンティブ』は，授業の中では（特に政治の文脈では）あまり扱われていないのではないか」との指摘もいただいた。また，「総じて，問題文の記述を通じて考えさせる良い問題であるが，

ルソーに関する部分や，最後のBの発言での高いメッセージ性など，受験者に読ませたいところではあるが，設問に絡まないため，読まなくても解答できてしまうのが残念である」との指摘もいただいた。これらの評価・指摘を踏まえ，今後も出題に当たっては，基本的な知識に基づきつつ，公共空間における現代的課題を多角的な視点から検討・考察する力を問う問題作成に努めたい。

第３問は,「前半は見やすい資料が示され，徐々にテキストデータを読ませるつくりになっているところは受験者にとって取り組みやすいものになっている」と評価をいただいた。問１は,「AI・データ解析の専門家の不足状況」及び「AI・データ解析の専門家の不足理由」の資料を見て，今日の状況を読み取らせる問題である。大問の冒頭で日本の状況を大きく捉えることができる良問であり，難易度は低いという評価であった。問２は，企業行動をゲーム理論的に考えさせる問題である。単にモデルを読み解くだけでなく，どのように目の前の課題を解決することができるのかまで考えさせるという点で良問であるという評価をいただいた。ただし，囚人のジレンマについて学習する機会がなかった受験者にとっては難しく感じられたのではないかというコメントもあった。問３は，日本の租税制度についての知識を問う問題である。各選択肢が示している内容は適切なものであるが，一部の受験者にとってはやや難しい表現になっているのではないかとコメントがあった。問４は，AI の倫理的問題と幸福との関わりについての知識及び思考力を問う問題である。会話の内容が，現在から未来に向けての展望を扱う良問となっているという評価であった。全体を通じて，出題者の意図が評価されたことは喜ばしく思う。今後も学習指導要領を踏まえて「公共」らしい問題となるよう努めていきたい。

第４問は，全体として,「標準的な難易度の出題」という評価をいただいている。問１は,「青年期についての基礎的・基本的な知識を問う問題」という評価を得たが,「儀式」と「行事」の結びつきで解けてしまうという問題も指摘された。実際，正答率も高かった。問２については，国ごとの社会保障制度の体系についての知識と資料をもとに丁寧に読み取る技能を必要とするが標準的な難易度という評価をいただき，正答率・識別力とも適正であった。問３は,「積立方式と賦課方式の特徴についての基礎的・基本的な知識を問う」「標準的な難易度の問題」と評価された。正答率・識別力とも適正であった。問４は，労災保険に関する問題の難易度が「公共」の試験問題としては難しいと評価され，この点については検討の余地がある。

４　ま　と　め

全体をとおして,「本試験同様，追・再試験も学習指導要領を踏まえて作られており，取り扱っている話題など随所に現実社会の諸課題に取り組む『公共』らしさがみられる結果となった」,「本試験同様，各大問も内容のまとまり毎に作成されており，受験者にとっても解きやすい問題構成となっていた」との評価をいただいた。また，全体的な難易度についても「本試験との難易度の差が感じられず，扱っている内容も『公共』らしさが感じられ，学習指導要領に定める範囲で出題され，難易度は標準である」との評価をいただいた。今年度は新課程「公共」の最初の共通テストでもあり周囲の関心も高かったが，追・再試験においても同様に学習指導要領の趣旨や「公共」の問題作成方針に則り，法，政治，経済や，探究活動の各内容項目からバランスよく出題し，受験者の知識・技能・思考等の各観点についてもしっかり問うことに留意して作問した点が一定程度評価されたものと考えている。

ただし，高等学校教科担当教員の評価からは「観点が知識に分類される問題に課題がみられた」との指摘もあり，思考や判断といった学習活動がなされる前提としての知識や概念の習得について，改めて作問上においても検討していく必要がある。

また，分量・程度については,「分量については適切であり，解答時間内で十分解答できた」,

「基礎的・基本的知識を問う問題から，資料などの読み取りや知識を活用し，思考力・判断力・表現力等を要する問題まで幅広く出題された」ことなどを踏まえつつ，全体として「すっきりした印象を受ける」との評価もいただいた。さらに，表現・形式についても，全体的には「知識を問う問題であっても，主体的に学習に取り組み，思考し判断し，それを表現するという新課程での学習のねらいが，しっかり反映されている」，「問題のまとまりとしても，設問の多い大問でも８ページに収まっており，受験者の集中力を考えても適切であった」との評価をいただいた。とは言え，「会話形式などの問題文の中には，社会的課題を投げかけるメッセージ性の高い部分もあったが，設問に絡まないことで，受験者の中には深く読まずに終わる者もいたかと思われる」との指摘については真摯に受け止めていく必要がある。

こうした諸点を踏まえつつ，今後も課題探究活動の場面や主体的に学習に取り組む態度などを意識しつつ，新課程「公共」が目指す作問づくりが行えるように検討を重ねていきたいと考えている。